

2022年度第3四半期決算説明資料

発表日時：2023年2月1日（水）16:30（今回、説明会の開催はございません）

【2022年度第3四半期決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド1をご覧ください。
- 売上高は、燃料価格の高騰等で燃料費調整額が増加したことなどにより、増収となりました。
- 経常損益は、グループ全社を挙げて収支改善に努めたものの、JERAにおける燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことや、燃料・卸電力市場価格の高騰等による電気調達費用の増加などにより減益となりました。
- なお、四半期純損益は3年連続の減益となりました。

- 具体的な連結決算の数字については、スライド2をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比57.3%増の5兆5,126億円と増収となりました。
- また、経常損益は、前年同期比4,261億円減益の3,538億円の損失となり、特別損益を加えた四半期純損益は、前年同期比6,607億円減益の6,509億円の損失となりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド4と5では、各セグメント別の業績とポイントをご説明いたします。
- まず、ホールディングスの業績です。
- 売上高は、子会社における売上高の増加などにより、128億円増収の3,783億円となりました。
- 経常損益は、基幹事業会社からの受取配当金の減少などにより、前年同期比245億円減益の474億円となりました。

- 次に、フュエル&パワーの業績です。
- 経常損益は、JERAにおける燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことなどにより、前年同期比722億円減益の815億円の損失となりました。

- 続いて、パワーグリッドの業績です。

- 売上高は、エリア需要の増加や最終保障供給の増加などにより、前年同期比5,264億円増収の1兆8,626億円となりました。
- 経常損益は、燃料価格高騰影響による電気調達費用の増加などにより、前年同期比484億円減益の1,150億円となりました。
- 続いて、エネルギーパートナーの業績です。
- 売上高は、燃料費調整額の増加などにより、前年同期比1兆5,757億円増収の4兆4,667億円となりました。
- 経常損益は、燃料価格高騰影響による電気調達費用の増加などにより、前年同期比3,266億円減益の3,689億円の損失となりました。
- 最後に、リニューアブルパワーの業績です。
- 卸電力販売が増加したことなどにより、売上高は、前年同期比84億円増収の1,256億円、経常損益は、前年同期比107億円増益の513億円となりました。
- なお、セグメント別の前年同期比較資料をスライド8以降に参考として添付しております。

【連結特別損益の概要】

- 次に、連結特別損益についてご説明します。スライド6をご覧ください。
- 特別利益に、関係会社株式売却益を1,233億円、固定資産売却益を627億円計上した一方で、特別損失に原子力損害賠償費を4,837億円計上いたしました。
- 原子力損害賠償費については、原子力損害賠償紛争審査会において決定された中間指針第五次追補を踏まえた見積額の増加分として、3,943億円を計上しております。
- これにより、特別損益は、前年同期比2,449億円減益の2,977億円の損失となりました。

【連結財政状態の概要】

- 続いて、連結財政状態について、スライド7をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より4.5ポイント悪化し、20.4%となりました。これは、原子力損害賠償引当金が増加したことなどで、負債が増加したことに加え、親会社株主に帰属する四半期純損益が赤字であったことなどにより、純資産が減少したことによるものです。

【2022 年度業績予想】

- 2022 年度業績予想について、スライド 13 をご覧ください。
- 2022 年度業績予想は、2023 年 1 月 23 日に公表した見通しから修正はありません。

【結び】

- エナジーパートナーをはじめ、厳しい状況ですが、徹底的な合理化を進めるとともに、節電施策の展開などにより電気調達費用の削減に努め、収支改善を図ってまいります。
- 節電は当社の収支改善に寄与するだけでなく、使用電力量の削減により、お客さまのご負担軽減にも繋がる取り組みで、各種節電施策による 2022 年 12 月の節電効果は 6.2 億 kWh となります。
- 今後も、継続して節電・省エネしていただけるよう更なる節電施策を今年度中に公表予定であり、「電力の安定供給」と「カーボンニュートラル社会の実現」の両立に向け、お客さまとともにこの難局を乗り越えてまいります。

以 上